

第 8 回嶺南地域流域検討会における質問事項の回答 佐分利川水系

第 8 回流域検討会で委員の方々からいただいた流量の減少、堤防の現状などについての質問事項に対して河川管理者より回答が行われました。

委員からの主な発言

1. 近年、毎年夏に水不足が生じるということだが、人口は恐らく増えていないと思うので、何が理由なのか明確にして欲しい。また、具体的にどのような状況なのか教えて欲しい。現状の施設の増強の可能性が不明確なままでは、ダム建設の是非に対する議論が難しい。

【大飯町】

人口は増えていませんが、特に夏場の水の利用量が多くなるので、地下水水位が低下してしまい、井戸の清掃で揚水効率を上げて夏場をしのいでいます。

2. 費用対効果のところ、現状からの更なるコスト縮減を考えているという説明があったが、その方法と縮減幅を教えて欲しい。

【河川管理者】

堤体の断面をなるべくスリム化するための詳細な検討をしており、現在 1 割程度のコスト縮減が図れるのではないかと試算しています。

3. 佐分利川について、河川流量は変わっていないのに対して、地下水水位が下がっているとのことだが、流量と地下水水位の因果関係を観測、調査した方がよい。
4. 大津呂生活貯水池には、正常流量を確保する目的での貯水容量が多いと思う。必ずしも義務付けられていない正常流量の確保の根拠について、河川管理者の考えを明確にすべきだ。特に維持流量については現在の河川環境を見ると、確保する実際的な意義に乏しい。

【河川管理者】

流水の正常な機能の維持に必要な流量の確保は、河川法に沿ったものであります。また、大津呂生活貯水池には、上水道が新規利水として含まれています。その新規利水を確保するには、下流の既得の不特定容量を確保しないと、既得水利権者の理解が得られないということがあります。

5. 治水対策については河川改修で対応できる大津呂川流域に、ダム建設という大規模な投資を行う社会的な妥当性はないのではないかと。

【河川管理者】

既往洪水被害に対する治水対策の必要性や、湯水被害、水道水の安定供給、新規開発に伴う水需要増への対応などの利水対策の必要性を総合的に判断して、妥当と考えています。

6. 地下水の減少ということが水道源を枯渇していることにもなっているため、大飯町としても地下水水位を回復することを目的として、水系全体に対する負荷を減らしていくということも考えて欲しい。
7. 大飯町のきれいな山並みが、他の生活貯水池での事例のように周辺がはげ山になってしまうと、大変な問題になるのではないかと。そういう意味では、生活貯水池を造るにしても、最小限の影響にとどめることをとにかく考えて欲しい。
8. 今回のまとめとして、会長から次のような意見が述べられた。

「福井県や嶺南地域におけるマリンワールド開発の意義、新規利水への対応、および正常流量確保の必要性などの所与の条件として認めるならば、水を安定的かつ効率的に供給する方策として生活貯水池建設案は否定されるものではないと考える。

環境への影響については、富栄養化、濁水長期化、堆砂問題、生態系の分断などに関して、今後の調査結果の注意深い評価が必要になるが、現況から判断して、クマタカの営巣地が発見されるなどのことがない限りは、ダム建設を否定することにはならないと予想される。

上記の所与の条件は、本検討会で取り扱う範疇を超えており、福井県の財政状況や投資効果を考慮した上、行政の慎重な判断が望まれる。」

早瀬川水系の河川整備について

早瀬川水系の河川整備として、三方五湖を含んだ早瀬川水系の治水に関する基本事項について、河川管理者より説明がありました。

三方五湖を含んだ早瀬川水系に関する基本事項 < 治水 >

委員からの主な発言

1. 海からの海水の流入による久々子湖周辺の被害もあると聞いている。そうしたことも検討して欲しい。
2. せめて平面二次元流モデルを使用するなど、治水評価モデルの更なる精度向上を図って欲しい。

【河川管理者】

今後、水位計等の設置により継続的に水位データの観測を行い、精度向上を図ります。

笙の川水系の現状について

笙の川水系における流域及び河川の概要として、「流域」、「河川」、及び「社会環境」という視点からとりまとめた現状について河川管理者から報告がされました。

笙の川水系の現状

委員からの主な発言

1. 豊かな生物相、自然に恵まれた河川から恩恵を受けてきた敦賀市民の暮らしが変わりつつある。そういう点を含め、市民と河川との関係づくりについても審議して欲しい。
2. ハザードマップが配られたが、足羽川の水害の時も敦賀市が作成しているという話が出た。敦賀市の意識が特別高いとか、内水の被害が頻発しているとか、特に理由があるのか教えて欲しい。

【河川管理者】

平成10年の台風による洪水で笙の川の水位が堤防天端ぐらいまで上昇したため、敦賀市民は大変危機意識を持っており、河川改修がすぐに出来ないのであれば、ハザードマップ等に対応できないかということで、昨年の6月に発行されました。

次回の検討会では、今回出された意見や質問に対する回答について河川管理者が説明し、引き続き、佐分利川水系、早瀬川水系河川整備計画（案）策定に向けた審議を行うこととなりました。